第18回 ネイチャーキッズ特派員

とうほく南三陸探検隊

ネイチャーキッズ賞作文&体験記録集

プロジェクトについて

公益財団法人世界自然保護基金ジャパンと株式会社カスミは、2002年より環境活動・環境教育の一環として自然体験エコツアーを実施しています。

第18回目の今回も小学校4～6年生を対象として「大切にしたい自然と生き物」をテーマに作文を募集し、31通のご応募からネイチャーキッズ賞受賞8名を特派員として、とうほく南三陸へ派遣しました。（延べ3368通の応募作文・168名派遣）

舞台となる南三陸町は、高い山々と広い海に囲まれ、リアス式海岸や分水嶺などの特徴的な地形が有名な町です。

東日本大震災から8年、被災したこの地域では、自然環境の保全と、持続可能な社会づくりを通じた復興をめざし、様々な活動が行われています。

「自然の恵みと人の暮らしのつながり」をテーマとして、多様な生物の生きる南三陸の海と、その海によって成り立っている水産業、そして、そこで生活している人々の暮らしについて学びました。

4日間のツアーの中では、シュノーケリング観察やカヤック体験、また森の探検などを行いました。そこで学んだこと、感じたことなどを子どもたちが「手作り壁新聞」にまとめましたので、ネイチャーキッズ賞の「作文」とともにご紹介いたします。

第18回 ネイチャーキッズ賞入賞者

石川 倫
さいたま市立大砂土小学校 4年

今泉 和夏
つくば市立竹園東小学校 4年

飯田 陽路
つくば市立桜学園栄小学校 5年

齋藤 悠一郎
茨城大学教育学部附属小学校 5年

田口 美愛
船橋市立高根台第三小学校 5年

海老根 拓斗
茨城大学教育学部附属小学校 6年

佐々木 愛峯
牛久市立向台小学校 6年

西本 誠歩
つくば市立松代小学校 6年

ネイチャーキッズ賞作文・探検隊員手作り壁新聞 4面～11面
作文&体験記録集はカスミのホームページでもご覧いただけます。http://www.kasumi.co.jp/

WWF奨励賞入賞者

- 松本 怜　みどり市立笠懸小学校 4年「守りたい魚や生き物」
- 鈴木 菜月　つくば市立吾妻小学校 4年「聞けばつ体験で気づいたこと」
- 鈴木 裕翔　ひたちなか市立長堀小学校 4年「魚のすみかのために」
- 佐々木 祐善　牛久市立向台小学校 4年「大切にしたい自然と生き物」
- 青木 翔夢　日立市立河原子小学校 5年「大切にしたい自然と生き物」
- 倉持 わかな　つくば市立学園の森義務教育学校 5年「川遊びの思い出」
- 石田 絢菜　つくば市立谷田部小学校 6年「ナガミヒナゲシから学んだこと」
- 長嶋 一樹　常陸太田市立太田小学校 6年「サメから考えたこと」
- 高橋 秀斗　つくば市立春日学園義務教育学校 6年「スズメのいる自然を守っていくために」
- 秋葉 律貴　常総市立玉小学校 6年「増える絶滅危惧種」

カスミ奨励賞入賞者

- 海老根 理咲　茨城大学教育学部附属小学校 4年「ありがとう、お母の桜」
- 大槻 友洋　東村山市立八坂小学校 4年「きれいにしたい海」
- 松本 芽唯　ひたちなか市立勝倉小学校 4年「かぎりあるもの。」
- 小坪 蓉　杉並区杉並第二小学校 4年「みんなで守ろう地球の森」
- 椎名 いぶき　市川市立稲荷木小学校 4年「自然と生き物の大切さ」
- 沼田 和奈　つくば市立栗原小学校 5年「おじいちゃんの木」
- 杉山 たまき　開智望小学校 5年「大切にしたい、アマミノクロウサギ」
- 深谷 紅夏　桜川市大国小学校 5年「大切にしたい自然と生き物」
- 山下 未有　東京都練馬区立光が丘春の風小学校 5年「守っていきたい未来の自然」
- 大槻 友海　東村山市立八坂小学校 6年「きれいな自然を守りたい」
- 荒井 千波　館林市立八幡小学校 6年「耳をかたむけて」
- 大越 公太郎　聖隷町立山倉小学校 6年「じいからのプレゼント」
- 齊藤 然　荒川区立尾久第六小学校 6年「守りたい、大切な自然を」

ネイチャーキッズ特派員 概要

作文募集 4/1～5/20

7/6 任命式（説明会）

ネイチャーキッズ賞の8名に探検隊としての任命証を渡しました。

ツアー実施 7/23～26 探検隊プログラム

7/23 町を知る

東京駅を出発し、南三陸へ。海のビジターセンターでお話を聞きました。

7/24 森にふれる

森の中を散策しました。

7/25～26 海と共に生きる力を育む

シュノーケリングとカヤックを体験しました

キャンプ場周辺の散策をしました。

8/24 体験のまとめ報告会

ツアーから戻ると体験の記録や感想を手作り壁新聞にまとめ報告会を開いて内容をそれぞれに発表し、体験を振り返りました。

●発行・編集／WWFジャパン（公益財団法人世界自然保護基金ジャパン）
株式会社カスミ
●お問い合わせ／株式会社カスミ 環境社会貢献部　TEL 029-850-1824　9:00～17:00（土・日・祝除く）

多様な生物の生きる南三陸の海と人々の暮らしについて学んだ3泊4日のエコツアー

南三陸町の海は、寒流（親潮）と暖流（黒潮）がちょうど混ざり合う穏やかな湾で、カキ・ホタテ・ワカメの養殖が盛んな漁場です。
山と海も非常に近く、シュノーケリングやカヤックによる海の観察と、地元の食材を味わうことで「食」と「自然」のつながりを学びました。

海を感じる

海の中の生き物や植物を観察する

「シュノーケリング観察会&カヤック体験」

南三陸の宝物の海。海に入って海藻や生物を観察したり、水面に座るかのような目線で乗るカヤックのレクチャーを受けて、ハンドリングしました。

埠頭で釣りをしました。エサをつけるのにひと苦労。

自然を守る気持ちを育むために海岸のクリーン活動をしました。

海と共に生きる力を育む

「神割崎キャンプ場キャンプとBBQ」

キャンプ場では自分たちでテントをたてるところからはじまりました。

夜は火を囲んで一日の振り返りを

きれいな星空をみて、眠りにつきます。

薪に火をつけるのは、マッチを使うところから苦労しました。

飯ごうでご飯を炊き、みんなで協力して3種類のカレー作りをしました。とても美味しくできました。

町を知る

震災後の南三陸町を巡り自然の大きさを知る

「町の散策」

南三陸・海のビジターセンターでは周辺の自然（鳥や魚・植物）志津川湾についてを学びました。

ポータルセンターのテントで東日本大震災の記録「南三陸ストーリー」を見学しました。

森にふれる

森と海の深いかかわりを知る

「森のトレイル」

田束山（たつがねさん）は古くから山岳信仰の霊山として人々の信仰を集めてきました。

神行堂山麓の杉林の奥深くに横たわる巨石も訪ねました。大自然が創った不思議な造形です。人々は代々巨石を神のよりどころとして、崇めてきました。昔、子供達の成長の証として、この巨石の裂け目をくぐりぬける儀式をしたそうです。

お世話になったみなさん

4日間ありがとうございました

海の自然史研究所の皆さん／イールズの皆さん／民宿「函館」コモンズ／カメラマン（有限スタジオ）佐藤信一さん、亀ちゃん

NPO法人海の自然史研究所 海のビジターセンター長 平井 和也さん（ピース）

ネイチャーキッズのみなさん、元気ですか？
Mr.ピースです。
南三陸での活動はどうだったですか。海や森での活動が、キャンプをしたことが、この町に来たことが、みんなの未来づくりにつながれば良いなと思っています。みんなの未来は、自然ともっとしっかりつきあわないといけなくなるんじゃないかなと。それをのり越えていける力が、少しでもこのネイチャーキッズで育まれていることを願っています。
ぜひまたどこかで会いましょう。

みなさんお元気ですか？オリーブです！
南三陸から帰っての心境はいかがですか。
おなじちやご家族のみなさんに南三陸のことをお話しできましたか？
この頃は、強い台風など水害が多く目立ち、やっぱり私たちは自然に生かされていると実感しています。
南三陸で経験した中に初めてのことがたくさんあったと思いますが、みんなの普段暮らしているところにもまだまだ知らないことがたくさんあると思います。
なぜそこに森があるのか、木はだれが植えたのでしょう。
自然や歴史について調べたり
きいたりしてその土地の魅力をぜひ感じてほしいです。
またあそびにきてください。
お待ちしています。

NPO法人海の自然史研究所 海のビジターセンタースタッフ 藤山 友美子さん（オリーブ）

発刊によせて

株式会社カスミ 取締役会長 小濱 裕正

WWFジャパン様との協働で2002年より当事業である自然体験エコツアーを実施して18年目となり、今年も東北南三陸を体験のフィールドとして訪れました。震災から8年、子どもたちは現地の方々と接し、町の復興過程を見聞きすることにより、たくさんのことを感じ学んでくださったでしょう。

また、南三陸には山・森・川があり、それが繋がりあって豊かな海をはぐくんでいることを、森の中の山を歩き、シュノーケリングやカヤックでの海の観察で知ることが出来たと思います。

とうほく南三陸探検隊に参加した後に、特派員の子どもたちが作成した壁新聞には南三陸町をみんなに知ってほしい、私たちの手でされいな自然を守って行きたいとも書かれています。子ども達の目で見てきたままの感性豊かな描写でまとめられている壁新聞を皆様も是非ご一読ください。

このような体験を通して自然を大切にする気持ちを育み、環境問題に少しでも関心を持ってもらいたいと考え、WWF様と共に環境教育の場の提供を今後も続けていきたいと思います。

WWFジャパン 事務局長 筒井 隆司

ネイチャーキッズ特派員のみなさん、お疲れさまでした！

南三陸の自然探検隊は楽しかったですか？初めて会うお友達や大人の人と旅行するのは不安だったと思いますが、勇気をもって参加してくれて大変嬉しく思います。

その勇気をもって次度は世界の仲間たちとも一緒に活動が出来ると良いですね。

南三陸は海の幸にもしの幸にも恵まれた、人と自然が調和して生きる場所です。

東北大震災と大津波で住民の皆さんは大変なご苦労をされました。世界中の人が見守る中で、南三陸町の人々は毎日真剣に復興に取り組んでいます。そこで人間は自然のもつ力の大きさや変化を正しく理解し、自然を大切にし、山や海が与えてくれる豊かな恵みを利用しながら生きていることに気が付いたでしょうか？

貴重な夏休みの中で参加してくれて有難うございました。

これからもネイチャーキッズ特派員としてお友達に自然と人間のかかわり方について話し合って下さい。皆で一緒に地球の環境を守ってゆきましょう！

WWF
©1986 Panda Symbol WWF
"WWF" is a WWF Registered Trademark

楽しみながら自然を学ぼう！

とうほく南三陸の山と海の自然 探検MAP

1日目～3日目 海のビジターセンター〈坂本海岸〉

海岸のクリーン活動と釣り

みんなとゲームをしながら、周辺の自然を学びました。

1日目～2日目 下道荘（したみちそう）

お世話になりました！

2日目 田束山（たつがねさん）～神平（かみだいら）周辺

森のトレイルで田束山や巨石に登りました

◆この作文&体験記録集は、カスミのホームページでもご覧いただけます。

WWFジャパンととうほく南三陸

ギンザケやカキ、ホタテやワカメなどの養殖業が盛んな宮城県南三陸町。志津川湾を囲むように志津川地区・歌津地区・入谷地区・戸倉地区と4つの地区から形成されるこの町は、2011年3月の東日本大震災で大津波による甚大な被害を受けました。
WWFジャパンは、大きな被害を受けた地元の基幹産業である水産業を震災前そのままの状態に戻すのではなく、海の環境に配慮した新しい養殖のあり方を模索し、その実現に向けた取り組みを行なっています。

南三陸町
7月下旬の気温
平均気温 26.0℃
最高気温 31.0℃
最低気温 20.0℃

3日目 坂本海岸〈カヤック・シュノーケリング〉

2組に分かれてカヤックとシュノーケリングを体験

簡単リゾット作りとビジターセンターのお掃除

3日目～4日目 神割崎（かみわりさき）キャンプ場〈プログラムの実施と宿泊〉

テントの設置から片付けまで体験。BBQ、カレー作り、はんごうでごはんも炊きました。

大きく育て、ムラサキシキブ

つくば市立竹園東小学校　四年　今泉 和夏

三年生の時、つくば山で小さな木を見つけて、植木ばちに植える会に行きました。わたしはムラサキシキブの木に決めました。大すきなむらさき色の名前だし、女の人みたいでいいな、と思ったからです。わたしは、植木ばちに、木と太陽の絵をかいて、木を植えて持ち帰りました。日のあたる所において、大きくなるといいな、と思って毎日水をあげました。ところが、木は三週間ぐらいで、葉がまいもなくなって、曲がってぼうみたいになってしまったのです。水をあげてみたけど、かれてしまいました。自ぜんの森とはちがう場所だからかれてしまったのかもしれません。わたしはがっかりして、悲しくなりました。

先週、家族とあたご山に植じゅ祭に行きました。なえ木の中に、ムラサキシキブがあったので、わたしはうれしくて、心をこめて植えました。はんの先生が、木が大きくなるには五十年かかると言ったので、びっくりしました。そして、先生は、森はへっているから、木や森を大切にしようと話してくれました。

次の日に図書館で調べると、日本の七わりが森で、このまま世界中で木を切りつづけると、森がなくなってしまうということが分かりました。本当にそうなるのは、いやです。わたしが植えたムラサキシキブも、前のときみたいに、かれてしまうかもしれません。

森を守るためには、どうすればいいか考えました。木を切りすぎない。切るときは必要な分だけにする。木から作られる物を大切に使う。紙やえん筆もむだ使いしない。人間が木を一本も切らないのはできないけど、森のために、人間が、少しがまんをすることはできる、とわたしは思います。人間は森を大切にし、森は動物や人を助けて、みんなが助け合う未来になるといいな、と思います。

わたしの植えたムラサキシキブに、五十年後、また会いたいです。

居場所がないメダカたち

さいたま市立大砂土小学校　四年　石川 倫

ぼくの自宅にはビオトープがある。昨年岡山県で捕まえたメダカの卵を飛行機の機内に持ちこみ、大事に持って帰ったのが始まりだ。

メダカの卵は中が黒くなり、動いているのが見えるようになった。尾は卵からでているのに、頭が出てこないメダカは針を使って卵から出してあげたりした。ぼくにとって可愛いメダカなのだ。だからこそ、最初は室内飼育をしようと思っていたが、室内だとかわいそうなので逃がしてあげようと思った。でも困った。用水路やきれいな川が近所にないのだ。そこで家族と一緒に庭にビオトープを作ることにした。赤玉土やハス・ホテイアオイを入れると、二週間ほどで水がすき通ったビオトープが完成した。庭にいた赤ダニを、指でメダカにあげてみると喜んで食べてくれた。

その事を一緒に住んでいるおじいちゃんに話すと、昔はぼくの家の周りには沢山の畑や田んぼがあり、ザリガニつりをしたり、夏になると蛙の声がうるさいくらいに鳴っていたり、蛍が飛んでいたことを教えてくれた。今は多くの建物が建ってしまい、田んぼや畑はない。新しくぼくの町に引っ越してくる人も多いが、ぼくと同じで昔は自然が沢山あった場所だとは想像すら出来ないと思う。メダカが住める場所はどこにあるのだろう。蛙やザリガニはどこへ消えてしまったのだろう。考えれば考えるほど本当に不思議に思う。

ストップ地球温暖化とよく聞くが、ぼくはもっと身近な環境や生き物の事を考えてもらいたい。人間の都合で生態系をこわしてはいけないと思うのだ。メダカは小さい生き物だけれど、人間と同じ地球上の生き物だ。それならば、人間の都合で考えるのではなく、生き物と一緒にくらしていける方法を一人一人が考えていかなければいけないと思う。

今年メダカが卵を産んだので新たにビオトープを作った。でも、ビオトープがふえることよりも沢山のメダカをきれいな川や用水路に放してあげたい。それがぼくの夢だ。

ぼくにできること

つくば市立桜学園栄小学校　五年
飯田　陽路

ぼくは、四つ葉のクローバーをみつけるのが、小さいころから大好きでした。ぼくの家の近くに大きな広場があったので、たくさんさがしました。しかしその広場が最近、ある会社の駐車場になりました。

ぼくの大好きなクローバーをさがせる場所が減りました。

ある日のことです。弟たちが、

「野ウサギがいたよ！」

と帰ってきました。車の前に飛び出してきて、うらの山にげて行ったそうです。ぼくも三年前ぐらいに、野ウサギを見たことがあります。家の近くの山の中に、巣のような穴を作っていて、ウサギがたくさん住んでいました。でもその山は今、スーパーマーケットなどを作るために開発され、さら地になっていて、きっとウサギは、今はそこに住めなくなったのだなと思います。

ぼくが住んでいる所は、自然がたくさんあります。だから、小さいころから自然の中で遊ぶのがあたりまえだと思っていました。でもその自然が、少しずつ減っていて、とても悲しいです。自然を守るために、ぼくたちに出来ることはないのでしょうか。

ぼくに今出来ることは、「考えること」だと思います。クローバーやウサギを守るために今すぐぐぼくが工事を止めることはできません。工事が進んで、ぼくが便利にくらせることも事実です。人間が便利さを求めながらどうやって自然と共に生きていくかを、ぼくたちが考えながら大人になることが大切だと思うのです。そして、ぼくたちの生活には自然が絶対に必要で、それを人間がかん単にこわしてしまってはいけないのだという意識を持って、実際に行動できる大人になりたいです。

ぼくが見つけた四つ葉のクローバーや、ぼくが見た野ウサギたちを、ぼくたちの子どもたちにも見せてあげられる未来を作ることが、ぼくにできる大切なことだと思います。

かけがえのない那珂川

茨城大学教育学部附属小学校　五年
齋藤　悠一郎

ぼくは今、平泳ぎ25mを45秒以内で、3.5km泳ぎ続けられるよう、特訓しています。それが那珂川遠泳大会の参加資格なんです。

全長約150kmある那珂川は、毎日登下校のときに渡っているなじみ深い川です。去年の夏休みの自由研究では、この那珂川の河口から上流まで約130kmを自転車でたどりました。途中にいくつもヤナが作られていて、次々とアユが上がっていました。初めてアユを手づかみしたら、バネのように跳ね、命の力強さにびっくりしました。地元のお店で、那珂川でとれたアユや川エビのからあげを食べたら、ものすごくおいしいくて、またびっくりでした。

上流に行くと水が澄んでいて、川底の石一つ一つがよく見えました。川原の石をどかしてみると、サワガニがいました。何匹か持ち帰って素揚げにして食べたら、自然のあまみが口中に広がり、とてもおいしかったです。

水質も調べました。上流から下流までの10箇所で水をくみ、CODパックテストで検査してみると、上流は「きれい」、下流でも「汚れが少ない」という結果でした。

ぼくの町の水道水は那珂川の水を使っています。那珂川が汚れてしまったら、ぼくたちは今の快適な生活ができなくなってしまいます。また、豊かな自然も失われてしまいます。この水資源を守るために、ぼくは歯みがきや手洗いの時に水をくみ置きしたり、食事の後に皿に付いた油などはふきとるようにしています。こうしたちょっとした心がけが、川の自然環境を守っていくことにつながります。そして何より、那珂川のよさを知り、大切にしようと思う人が一人でも増えることが、環境保全につながると思うのです。

今年の夏に行われる那珂川遠泳大会では、魚と一緒に川を泳いで、那珂川のすばらしさを体感したいです。そして、それを自由研究にまとめて発信していきたいと思っています。

「好き」

船橋市立高根台第三小学校　五年
田口 美愛

風がそよそよとふく。どこか静かで、どこかにぎやかで。緑をメインに木がそびえたっている。わたしは森が大好きだ。心がきずついている時、森は絆創膏になり、やさしくきずをつつんでくれる。かなしい時や、うれしい時は、お母さんのように、そっと話を聞いてくれ、そっと心によりそってくれる。

そして、なによりもおもしろいと思うのが自然ならではの「こせい」だ。同じなのに、よくみるとちがうということを、わたしは体育のじゅ業で習った「こせい」という言葉で言い表せると思う。そして、その「こせい」を見ているのが楽しい。この木は、せが高いから○○ちゃん。この木は周りとちょっとちがって、こせい的だから○○君と、クラスメートであてはめるほどだ。だから、わたしは人間社会が人間じゃなく「木」や「虫」や「草」になっただけのものが自然だと思う。よく見ると、あなたみたいなやつもいる。いいすぎかもしれないが、わたしは、世界中の人々が自然で表せるとまで思っている。二回もいうが、わたしは自然が大好きだ。けど、そんなわたしも気づかないうちに自然をいためつけている。

たとえば、わたしは絵を描くことも好きだ。けど、うまくいかないと紙をクシャクシャにして、ゴミ箱にポイッとしてしまう。その紙が木からできていると、知った時、わたしは悲しかった。なさけなかった。くやしかった。なのでわたしは大人になって自然の危機について語って、人々に知ってもらおうと思う。

わたしの大好きな自然のために。

サケ～命のサポート～

茨城大学教育学部附属小学校　六年
海老根 拓斗

ぼくの小学校では、五年生になると毎年冬にサケを飼育して那珂川に放流する行事がある。これは、少しでも多くのサケを増やすためにと、何十年も続く学校の伝統行事だ。

十二月、地域の漁業組合からサケの卵を分けていただき、学校のサケ室という部屋で飼育が始まった。サケ室のある学校は全国でも珍しく、ぼくのこの部屋に入ることができる嬉しさとサケの卵の珍しさに、当番がくるのが待ち遠しかった。仕事は、サケの水そうの水を取り替え、水そうを洗い、死卵を一つずつスポイトで取り除く。しかし、真冬の水は凍るほど冷たく、死卵の臭いにおいは一日中ぼくの鼻をつき、おまけに休み時間もつぶれてしまう。最初は楽しかった当番も、だんだん面倒に思えてきた。

そんな時、授業でサケの一生について学ぶ機会があった。サケは生まれた川から海へ出ると、はるかアメリカのアラスカ海まで渡り、成長すると産卵のため必ず故郷の川に戻る習性があるが、無事に戻るのはわずか数パーセントだそうだ。産卵のためにサケは必死に川を上り、巣を作り、卵を生んだ親サケはボロボロになりながら死んでしまうのだ。

そんなサケの一生を知ったぼくは、今までの自分が恥ずかしくなった。サケは、そう絶な思いと命がけの旅をして、自分達の命を必死につないでいるのだ。ぼくは、この命のリレーのバトンをつなぐサポートをしようと心に誓った。やがて、卵は発眼し卵の中に目ができた。卵膜のかすや泡で水そうの汚れがひどくなり、水そうの水替えが忙しくなったが、ぼくは一生けん命お世話をした。

春風が吹く三月の放流の日、サケ達は那珂川から旅立った。僕は心の中でつぶやいた。絶対戻ってきてね。また会おう。今度会う時にはぼくは中学生だ。大きくなった君達に会えるのを楽しみにしているよ……。

◆この作文&体験記録集は、カスミのホームページでもご覧いただけます。

大切にしたい！自然と生き物

牛久市立向台小学校　六年
佐々木　愛峯

私は、動物、植物、魚、虫など、いろいろな生き物と自然をとても大切にしたいと思います。生き物や自然を、大切にするということは生き物たちが住んでいる自然を守るということだと私は思います。自然は、人間たちに少しずつ破壊されつづけられています。このままでは、生き物や自然がなくなってしまうと思います。なので、自然を守るには木でつくられた製品を大事にしたり、資源を節約したりすればいいと思います。このようにして、生き物と自然を守っていきたいと思います。

そして私が、生き物と自然を大切にしたいと思った理由は、生き物が好きだからです。特に好きなのは、エキゾチックアニマルなどです。そんな生き物たちを大切にしたいと思います。今、生きている生物だけではなく、絶滅してしまった恐竜なども好きです。生き物と自然を大切にしたいと思っている理由はもう二つあります。それは、生き物が絶滅してしまうと、人間がこまってしまうことがあるからです。たとえば、蜂やチョウなどがいなくなってしまうと、植物の受粉をしてくれる虫がいなくなり、野菜や果物をつくることが難しくなってしまいます。草食動物を捕食する肉食動物がいないと、草食動物が増えすぎてしまい自然が少なくなってしまいます。木がなくなると、人間が物をつくることが難しくなります。このように、生き物や自然がなくなってしまうと、人間もこまることになるのです。

ふだん生き物や自然に、かかわっていないと思っている人でも、一つはかかわっているのではないか…私はそう思っています。どんな人でも、生き物や自然を大切にしていった方がいいと思います。これからもっと、私は生き物と自然にかかわると思うので、生き物と自然を、とても大切にしていきたいと思います。

そして、大きくなったら、獣医になりたいと思います。

実験植物園に行って

つくば市立松代小学校　六年
西本　誠歩

ぼくは、先日、家族とつくば実験植物園に行きました。ちょうどクレマチスが見ごろで、いろいろな形で、白、赤、むらさき、ピンク色をしたたくさんのクレマチスの花を見ることができました。また、花の形がまるでハンカチのようになっている「ハンカチの木」は面白い花がさいていると思いました。そのほかにも植物にはさまざまな種類があることがわかりました。

日本にはおよそ七千種類の植物があり、その中の四種類にひとつが絶めつしてしまいそうな植物になっていることを知り驚きました。たとえば、シン科のヤエヤマズコウジュは、むらさき色の小さな花がさき、葉も小さくてかわいらしい植物ですが、日本では沖縄地方にしか見られない珍しい植物で、絶めつの危険性が増大している絶滅危ぐ種Ⅱ類に分類されています。

植物が絶滅しそうになる一番の理由は、人間が便利に生活するために多くの土地を開発したり、排出した二酸化炭素などで地球が温暖化してしまい、植物が育ちにくい環境に変わってしまったからです。

実験植物園では植物の絶滅を防ぐため、もともと生えていた場所から植物を持ち帰り、育ちやすい環境で増やしてその植物を維持するという取組みがあることを知りました。ですが、せっかく増えた植物を自然に戻すためには自然の環境を整えることも大事です。

絶滅しそうな植物を少しでも減らすために、移動するときは、自家用車ではなくバスや電車を利用したり、緑のカーテンを作ってエアコンの使用量を減らして地球温暖化の原因となる二酸化炭素などの量を減らすことや、自然環境を守るため、森にごみなどを捨てないことが身近にできる取組だと思います。わたしはこれらのことを実行して、絶滅が危惧されている植物を助けたいと思います。